設楽発掘通信

No.87
令和６年
９月号

下延坂遺跡の整理作業について

下延坂遺跡（しものべさかいせき）の発掘調査は、二〇二〇年から二〇二三年までの四年間にわたって実施してきました。現在は、弥富市に所在する愛知県埋蔵文化財調査センター内で、報告書を作成するための整理作業を行っています（写真1）。整理作業というのは、発掘調査で得られたのすべての情報を整理する作業です。ここでは、土器の整理作業についてお伝えします。土器の整理作業では、すべての土器の破片を詳しく観察し、大きさや重さを計測したり、作られた時期を推測したりします。まず最初に、バラバラになっている破片をくっつける接合（せつごう）作業が必要になります。接合作業では、最初に厚みや色、断面の形、紋様（もんよう）、出土した場所などの情報をもとに破片を整理をして進めます。すると写真2の様に大きなものに接合できるものが出てきます。これは大変おもしろい作業です。このように「成長」してくれると、破片だけではわからなかった土器全体の形や複雑な構造、大きさが計測でき、土器の制作年代の推定に有力な情報が得られます。写真2の土器は、紋様などから、縄文時代中期後半（約四千五百年前）の土器と思われます。いつもこんな風に「成長」してくれるといいんですが、接合できない場合も結構あります。この後、実測図を書き、報告書へ掲載するかたちにしてゆきます。

（渡邉　峻）

▲写真１　土器の整理の風景

▲写真２　縄文時代中期後半の土器

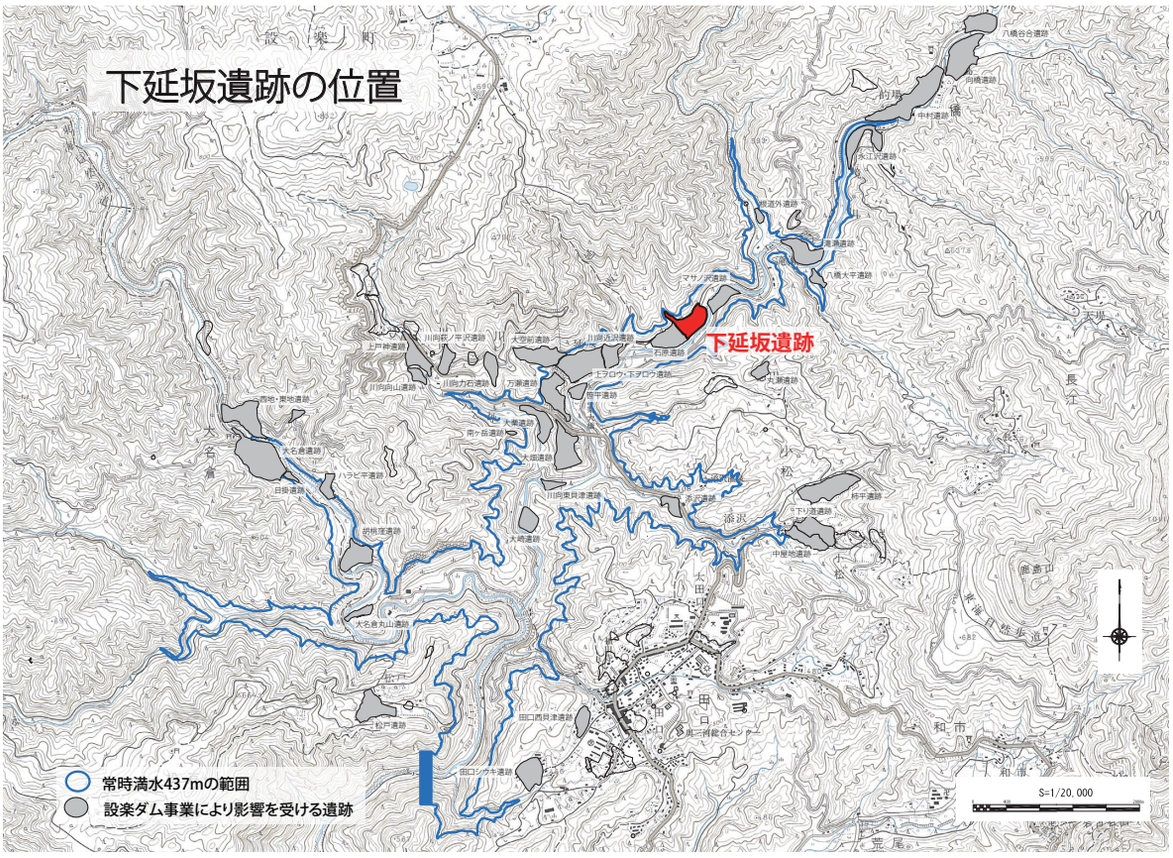

図１　下延坂遺跡の位置

国土地理院発行　２万５千分の１地形図「田口」 H27.1.1刊行より作成

下延坂遺跡の石器について

下延坂遺跡では、縄文時代から弥生時代の遺構や遺物が検出されています。その中でも、縄文時代中期後半の竪穴建物跡では、建物の廃絶後に石を敷き詰める配石行為を行うなど、設楽地域でもあまり見られない珍しい事例があります。

今回は、そのような事例と同じ時期の集落内に廃棄された石器についてご紹介します。下延坂遺跡二〇二二年度の調査では、縄文時代中期後半の竪穴建物跡や土坑などが多数検出されました。その中でも廃棄土坑のひとつ（5301SX）からは、土器片のほか多数の黒曜石製の石器が出土しています。それらの石器は、鏃や錐などの道具、それらの素材となる剥片、その剥片を剥がしとる元の石核等が含まれており、石器製作によって生じる残滓がまとまって廃棄されている状況でした。これは、この場所で原石から石器を製作していたことが分かる事例です。

その他、下延坂遺跡の縄文時代中期後半の遺構からは、黒曜石製の石器が多数出土しております。黒曜石は設楽町付近では産出しない岩石であり、信州系の土器も出土していることから、信州方面から持ち込まれたと考えられます。このことは、信州地域との交流が活発であった証拠となります。（田中　良）

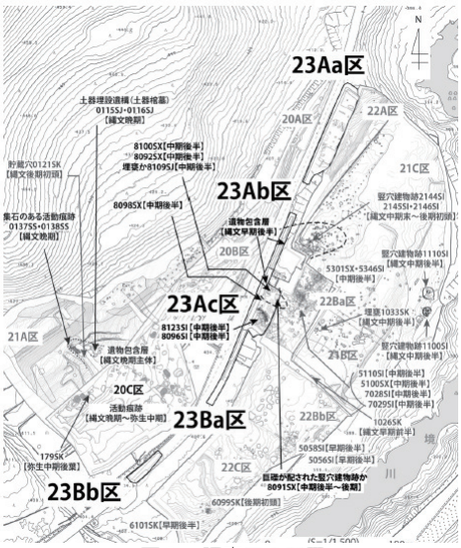

図２　調査区の配置

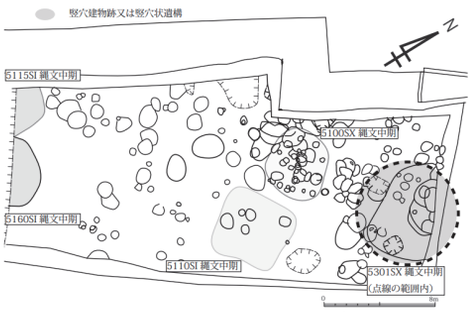

図３　22Ba 区 5301SX の位置

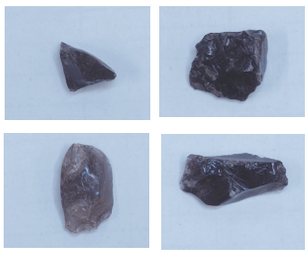
写真３　剥片の元となる石核

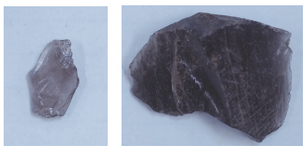
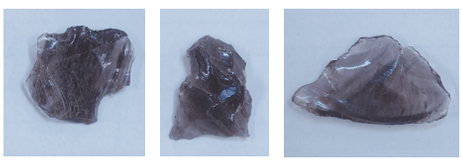
写真４　石器の素材となる剥片

写真５　石鏃や石錐などの石器

設楽発掘通信

No.87

令和６年８月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒４９８－００１７　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４

電話　（０５６７）６７－４１６１【管理課】４１６３【調査課】

ホームページ　http://www.maibun.com

Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi

Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　株式会社文化財サービス